

子どもに高い発熱があった場合、上気道炎などのウイルス感染症が最も多いですが、細菌により腎臓に炎症が起きる腎盂腎炎という病気を発症していることがあります。この腎盂腎炎を繰り返す場合、膀胱尿管逆流症という病気が隠れていることがあります。

この膀胱尿管逆流症の発症頻度は0・2～1%で、腎盂腎炎が起



徳島大学病院泌尿器科
高橋 正幸 副診療科長

こった子どもさんの30～50%の高率に膀胱尿管逆流症が見つかります。通常は膀胱にたまった尿は、膀胱のみにとどまっていますが、膀胱の尿が尿管を通して、腎臓まで上昇することで、腎盂腎炎をきたしやすくなります。

膀胱尿管逆流症は、自然に軽快することもあります。逆流の程度が高度であれば、自然に軽快する可能性は低くなります。また、自然に軽快する場合でも、年単位になる可能性があるため、それまでの間は少量の抗菌剤を眠前に内服し、腎盂腎炎を予防します。

腎盂腎炎により腎臓に機能が低下した瘢痕部位ができることがあり、瘢痕部位が多くなると腎機能

の低下につながります。少量の抗菌剤を内服しながらも腎盂腎炎を繰り返す場合や長期間経過観察しても自然に軽快しない場合など手術が必要になります。

子どもの腎盂腎炎と膀胱尿管逆流症

膀胱鏡下にヒアルロン酸とデキストランマービーズを混ぜた物質を尿管口の粘膜下に注入する方法もありますが、標準的な手術は、膀胱を開いて、膀胱に粘膜下トンネルを作製し、膀胱と尿管を新たに吻合し直します。下腹部を5センチ程度切開し、膀胱も切開するこの手術は、術後の痛みが強いことが多く、最近、この手術を腹腔鏡下で行う方法があります。これは下腹部に3カ所、6ミリ程度皮膚切開し、ポートと言われる筒状のものを3本膀胱内に留置し、開腹術と同じ手術を行います。

徳島大でも2015年8月にこの手術方法を導入し、現在までに14人の子どものさんに行いました。手術時間は、開腹手術より長くなりますが、術後の痛みが少なく、早ければ、術後3日目に退院することも可能です。これまで術後の膀胱造影で、全例で膀胱尿管逆流の消失を確認しています。体重が15キに満たない子どもさんには、この手術方法は適応になりませんが、ある程度の体の大きさがあれば、体に負担の少ないこの手術方法を行うことができます。